

R-PDCAのR 先輩から学んだこと

経営のPDCAサイクルが脚光を浴びて相当時間がたつ。最近では、R（research）がまずあってからPDCAサイクルが始まるという考え方がある。私も賛成である。

まず、何が起きているか、どういう状況下か、ニーズは何かなどをしっかりつかんでからPlanが始まることが大切である。

極論だが、敵がどこにいて、物量・人数がどれくらいかを把握しないで戦うことはしないだろう・・・。

具体的な話をする。

学習指導案を書くときも、本時案づくりの前に「生徒につけたい力」「授業の目標」「教材観」「生徒観」「指導観」が重要になる。状況を把握して設計に入らなくてはならない。かつて自分も真剣に書かなかったし読まなかったが今はちがう。この状況なのだから本時があるのだろうと判断してしっかり読ませてもらっている。つまり授業に対する先生の哲学がそこにあることになる。つまり、Rが大切なのである。

かつて、ある組織のリーダーが私に教えてくれたことがある。「議案書の最初に『情勢』が書いてある。あまり読まないかもしれないが、これが大切だ。情勢を分析して取り組みが構築されるのだよ」と。

また、こんな先輩もいた。私は学生時代にアマチュア無線のクラブに所属し、パワーアンプなどをつくることがあった。工学部大学院の先輩から、「スペック（仕様）をまず確定しよう。出力、周波数、電源、終段管などをしっかり定めよう。それから設計だ。」と。闇雲に回路図を書いていた自分に忠告をしてくれた。

このアドバイスが、指導案を読み、授業を拝見し、助言をすることにたいへん役立っている。また、私の仕事の進め方や戦略づくりにも役立っていると思う。

この先輩たちの言葉は今でも私の心に残っている。